

愛知県感染症情報

Infectious Diseases Weekly Report

平成 19 年 26 週(6 月 4 週 6/25 ~ 7/1)

(作成) 愛知県感染症情報センター(愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

連絡先: 052-910-5619 (企画情報部)

今週の内容

トピックス

麻疹全数把握事業における患者報告数は 22 週をピークに減少

注意する感染症

ヘルパンギーナ、手足口病は増加
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘は横ばい

病原体検出情報

平成 19 年度速報・平成 18 年度確定数

定点医療機関コメント

全数把握感染症発生状況

結核の累計は 228 件(14 週 ~ 26 週)

感染症だより(6 月後半)

WHO 疫学週報抄訳

2007 年 6 月 15 日(82 巻 24 号)
中国の B 型肝炎ワクチン普及状況
風疹ウイルス野生株遺伝子型分類
髄膜炎菌新型ワクチン
2007 年 6 月 22 日(82 巻 25 号)
世界のハンセン病 07 年の状況

定点把握感染症報告数(保健所別、年齢別)

トピックス

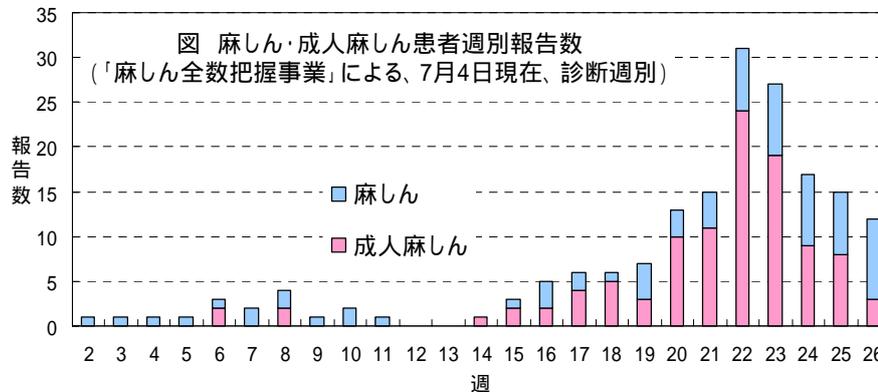
麻疹の発生状況

愛知県麻疹全数把握事業(参考ページ1)における患者報告数は 178 人(7 月 4 日現在)、うち成人麻疹は 107 人です。26 週における患者報告数は計 12 人(前週 15 人)でした。

感染症発生動向調査

によると、2007 年 25 週(全国の速報値)の小児科定点(全国約 3,000 か所)からの麻疹の報告数は 132(定点当たり報告数 0.04)と前週比 0.8 倍(175 → 132)と減少しました。愛知県の報告数は 2 でした。

基幹定点(全国約 450 か所)からの成人麻疹(15 歳以上)の報告数は 42(定点当たり報告数 0.09)前週比 0.9 倍(47 → 42)でした。愛知県の報告数は 0 でした(参考ページ 2)。



【参考ページ】

1) 「麻疹の全数把握事業が始まりました」

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/msl/msl.html>

2) 「IDWR(感染症発生動向調査 週報)」(国立感染症研究所・感染症情報センター)

<http://idsc.nih.go.jp/idwr/index.html>

3) 「麻疹(はしか)に注意しましょう!」

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/measles2.html>

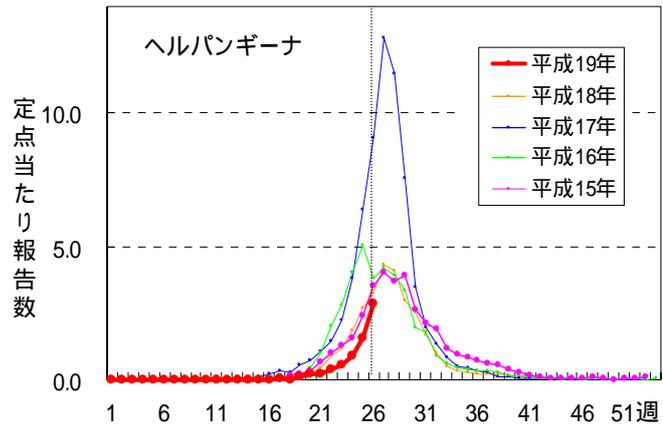
注意する感染症

1) ヘルパンギーナ

26週の定点あたり患者報告数は2.8人、前週比1.8倍(283人 516人)です。

参考ページ「ヘルパンギーナ」

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/herpangina.html>

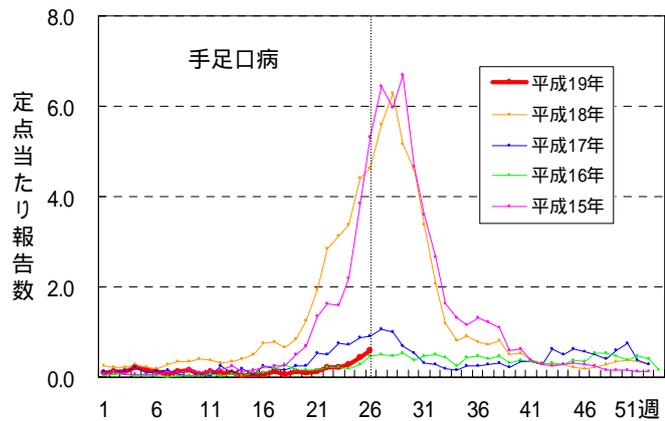


2) 手足口病

26週の定点あたり患者報告数は0.6人、前週比1.4倍(79人 110人)です。

参考ページ「手足口病」

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/natsu.html>

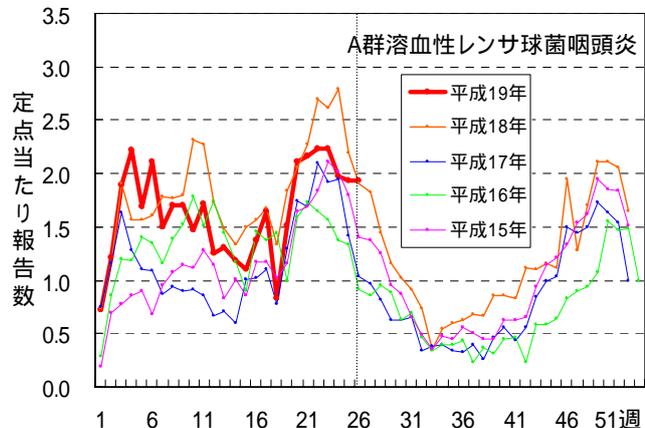


3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

26週の定点あたり患者報告数は1.9人、前週比1.0倍(352人 351人)です。

参考ページ「溶血性レンサ球菌咽頭炎」

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/yourenkin.html>

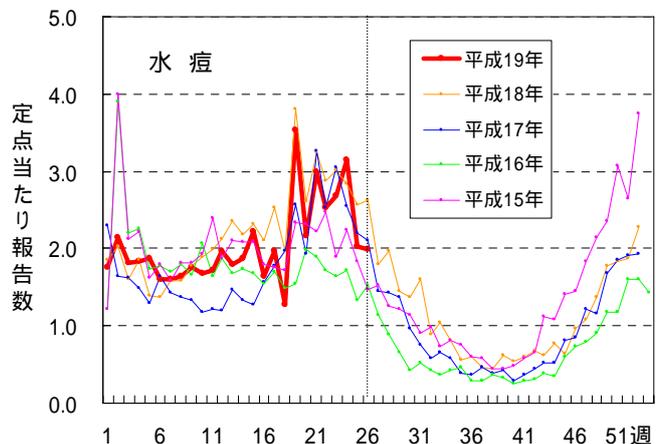


4) 水痘

26週の定点あたり患者報告数は2.0人、前週比1.0倍(370人 363人)です。

参考ページ「水痘」

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/suitou.html>



平成 18 年度疾患別ウイルス検出情報(確定数)は次ページに掲載されています。詳細は以下のページをご覧ください。

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/microbiol5.html>

平成 19 年度疾患別ウイルス検出情報(速報)
 <平成 19 年 4 月以降に発症した患者の検査結果です。>

	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	急性脳炎	インフルエンザ
患者数	84	10	2	9	1	10	1	42
PV-1	1	-	-	-	-	-	-	-
PV-2	1	-	-	-	-	-	-	-
CV-A16	-	4	-	-	-	-	-	-
CV-B5	-	-	-	-	-	1	-	-
Flu.AH1	-	-	-	-	-	-	-	4
Flu.AH3	-	-	-	-	-	-	-	10
Flu.B	-	-	-	-	-	-	-	1
HMPV	-	-	-	-	-	-	-	3
Rota A	1	-	-	-	-	-	-	-
Rota A-G1	5	-	-	-	-	-	-	-
Rota A-G2	1	-	-	-	-	-	-	-
Rota A-G3	2	-	-	-	-	-	-	-
Rota A-G9	5	-	-	-	-	-	-	-
Ad-1	-	-	-	1	-	-	-	-
Ad-2	1	-	-	2	-	-	-	-
Ad-3	1	-	-	2	-	-	-	-
検査中	49	6	2	1	1	3	1	8
陰性	19	-	-	3	-	6	-	17

Ad: アデノウイルス
 CV: コクサッキーウイルス
 Flu.AH1 : A ソ連型インフルエンザウイルス
 Flu.AH3 : A 香港型インフルエンザウイルス
 Flu.B : B 型インフルエンザウイルス
 HMPV: ヒトメタニューモウイルス
 PV: ポリオウイルス
 Rota A: A 群ロタウイルス

平成 18 年度疾患別ウイルス検出情報（確定数）
 <平成 18 年 4 月から平成 19 年 3 月に発症した患者の検査結果です。>

	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	急性脳炎	インフルエンザ
患者数	493(361)	135(11)	92(5)	28(4)	55	73(16)	14(5)	191(182)
PV-1	7(4)	-	1	-	-	-	-	-
PV-2	6(4)	-	-	-	-	-	-	-
PV-3	15(14)	-	-	-	-	-	-	-
CV-A2	-	-	1	-	-	-	1	-
CV-A4	-	-	39	-	-	-	1	-
CV-A5	-	-	10(2)	-	-	-	-	-
CV-A16	-	20(7)	2	-	-	1	-	1(1)
EV-71	1	58	-	-	-	4(1)	-	-
CV-A9	1	1	1	-	-	1	-	-
CV-B2	-	-	1(1)	-	-	1(1)	-	-
CV-B3	-	2	-	-	-	-	-	-
CV-B4	3(1)	-	2	-	-	-	-	-
CV-B5	-	-	-	-	-	1(1)	-	-
E-7	1	-	-	-	-	-	-	-
E-18	9(3)	-	1	-	-	8(1)	-	-
E-25	5(1)	1	-	-	-	-	-	-
E-30	-	-	-	-	-	-	1(1)	-
HRV	-	-	-	-	-	-	-	1(1)
HPeV-1	1	-	-	-	-	-	-	-
HPeV-3	3	3	2	-	-	2	-	-
HPeV-4	1	-	-	-	-	-	-	-
Flu.AH1	-	-	-	-	-	-	-	11(11)
Flu.AH3	-	-	-	-	-	-	-	40(40)
Flu.B	-	-	-	-	-	-	-	81(77)
HMPV	-	-	-	-	-	1	2	-
Mumps	-	-	-	-	-	1(1)	-	-
Rota A	8(8)	-	-	-	-	-	-	-
Rota A-G1	9(3)	-	-	-	-	-	-	-
Rota A-G3	19(11)	-	-	-	-	-	-	-
Rota A-G4	1(1)	-	-	-	-	-	-	-
Rota A-G9	15(15)	-	-	-	-	-	-	-
NV-G1	3(2)	-	-	-	-	-	-	-
NV-G2	61(60)	-	-	-	-	-	-	-
Ad-1	6(1)	-	1	-	-	-	-	1(1)
Ad-2	4(4)	1(1)	2	2(1)	-	1(1)	-	-
Ad-3	7(3)	3	3	17(2)	14	-	-	1(1)
Ad-4	-	-	-	1	-	-	-	-
Ad-5	6(4)	-	1	-	-	-	-	-
Ad-6	4(3)	-	-	-	-	-	-	-
Ad-31	1	-	-	-	-	-	-	-
Ad-37	-	-	-	-	6	-	-	-
Ad-41	7(4)	-	-	-	-	-	-	-
分離合計	204(146)	89(8)	67(3)	20(3)	20	19(6)	5(1)	136(132)

(): 10 月以降の患者数を再掲しました。

Ad: アデノウイルス

CV: コクサッキーウイルス

E: エコーウイルス

EV-71: エンテロウイルス 71 型

Flu.AH1 : A ソ連型インフルエンザウイルス

Flu.AH3 : A 香港型インフルエンザウイルス

Flu.B : B 型インフルエンザウイルス

HMPV: ヒトメタニューモウイルス

HPeV: ヒトパレコウイルス

HRV: ヒトライノウイルス

Mumps: ムンプスウイルス

NV: ノロウイルス

PV: ポリオウイルス

Rota A: A 群ロタウイルス

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

水痘目立ちます。
手足口病が出てきました。
先週の感染性腸炎で、1歳男 サルモネラ O4 群、6歳女 カンピロバクター
【一宮市 あさのこどもクリニック】
夏期に比較的多い感染症はなく、感染性胃腸炎のみが目立った。
【一宮市 後藤小児科医院】
マイコプラズマ感染症 9名
【一宮市 城後小児科】
アデノウイルス感染症が多い。
【一宮市 平谷小児科】
2歳男 川崎病で入院
【春日町 丹羽医院】

ヘルパンギーナ、アデノ散発中。
溶連菌減少中。
ロタ様白色水様下痢、細菌性胃腸炎散発中。
カンピロが目立ちます。
【犬山市 武内医院】
手足口病増加しています。
溶連菌感染症、水痘流行続いています。
伝染性紅斑2名ありました。
【江南市 みやぐちこどもクリニック】
溶連菌感染症多発しています。（例年よりも目立ちます）
水痘、手足口病多い。
アデノウイルス感染症も増えてきました。
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

尾張東部地区

病原大腸菌（O25）1歳男
カンピロバクター腸炎+病原大腸菌 O111 歳男
溶連菌感染症多い
【瀬戸市 津田こどもクリニック】
水痘流行あり。
ヘルパンギーナ少し出てきました。
百日咳（7か月）女1例あり。
その他溶連菌感染症、突発疹等。
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
O74 0歳
【尾張旭市 旭労災病院】
ヘルパンギーナが増えてきました。
【春日井市 春日井市民病院】

カンピロバクター腸炎、兄妹感染例。
溶連菌感染症増加。
水痘、手足口病、リンゴ病少々。
【春日井市 朝宮こどもクリニック】
ヘルパンギーナがやや増加しました。
その他は溶連菌感染はまだ多く見られます。
【小牧市 志水こどもクリニック】
溶連菌咽頭炎と伝染性紅斑が多いです。
【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】
マイコプラズマ肺炎2名
【美浜町 厚生連知多厚生病院】
溶連菌感染症がはやってきています。
【大府市 まえはらこどもクリニック】
カンピロバクター1名 4歳男
ヘルパンギーナが少し出てきました。
【東海市 もしもしこどもクリニック】

西三河地区

4歳女 StrepA (+)
5歳男 StrepA (+)
10歳女 StrepA (+)
36歳女 StrepA (+)
5歳男 キャピリアアデノ (+)
1歳女 カンピロバクター
11歳男 *E.coli*(O119)、カンピロバクター (+)
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
病原大腸菌 O74 (+) 5歳男
病原大腸菌 O25 (+) 41歳女
病原大腸菌 O1 (+) 4歳男
病原大腸菌 O6 (+) O18 (+) 6歳男
病原大腸菌 O1 (+) 9か月女
病原大腸菌 O18 (+) 11か月男
病原大腸菌 O125 (+) 6歳女
麻しんが1例(軽症)13歳女 ワクチン済み
【岡崎市 花田こどもクリニック】
4歳女 病原性大腸菌 O166 VT(-)
溶連菌感染症、ヘルパンギーナ流行しています。
【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】

アデノ 3歳男、5歳女、2歳女
9か月男 病原性大腸菌 O115 (+) VT(-)
1歳男 病原性大腸菌 O18 (+) VT(-)
【岡崎市 にいのみ小児科】
12歳男 麻しん(予防接種未接種) 中学校で感染
5歳男 病原大腸菌 O25
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
伝染性紅斑が流行しています。
ヘルパンギーナがでてきました。
【刈谷市 まついこどもクリニック】
マイコ感染症 4名
アデノ感染症 1名
【刈谷市 田和小児科医院】
細菌性腸炎が多い印象です。
【碧南市 永井小児科クリニック】
4歳女 アデノウイルス感染症
4歳女 病原性大腸菌 O25 VT -
6歳女 病原性大腸菌 O18 VT -
4歳女 病原性大腸菌 O18 VT -
【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

アデノ扁桃炎 1名
 【豊橋市 マミーローズクリニック】
 5歳女 サルモネラ(O9)
 ヘルパンギーナが少し増えてきました。
 【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
 ヘルパンギーナが増えてきました。
 伝染性紅斑流行中
 【豊橋市 あずまだこどもクリニック】
 夏かぜによる高熱児が目立つ
 感染症胃腸炎では、*E. coli*、黄色ブ菌、
 サルモネラが検出。
 【田原市 かわせ小児科】

麻しん母子 11か月男と21歳女 ともに
 ワクチン未接種
E. coli (O6) 4歳男
E. coli (O86a) 4歳男
E. coli (O25) 5歳女
E. coli (O8) 4歳男
E. coli (O111) 0歳男
 サルモネラ(O8) 4歳男
 【豊川市 ささき小児科】

一～三類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。)-

<関連リンク> 届出基準 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun070615.pdf>)

結核 (二類感染症)

報告保健所	26週報告数		累計(2007年14週～26週)	
		(喀痰塗抹検査陽性者数・再掲)		(喀痰塗抹検査陽性者数・再掲)
豊田市	1		20	4
豊橋市			9	2
岡崎市			17	10
一宮	1		23	7
瀬戸	1		27	12
半田			9	3
春日井			22	4
豊川			12	8
津島	1		23	10
西尾	1	1	11	9
江南			15	7
新城			1	
知多			18	8
師勝			9	3
衣浦東部			12	3
合計	5	1	228	90

腸管出血性大腸菌感染症 (三類感染症)

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	瀬戸	13	男	6/25	6/26	6/30	O157、VT2(+)
2	豊川	1	女	6/24	6/26	6/29	O157、VT1・VT2(+)
3	江南	21	男	-/-	6/25	6/25	O157、VT1・VT2(+) <無症状病原体保有者>
4	衣浦東部	10	女	6/23	6/25	6/29	O157、VT1・VT2(+)

四類・五類(全数把握)感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。)-

レジオネラ症 1例
 梅毒 1例(晩期顕症、推定感染地域;国内、感染経路不明) <25週追加報告>

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

七夕の笹かざりが病院の受付を彩っています。色とりどりの短冊や折り紙をみていて、アフリカの子もたちの真っ黒な顔を思い出しました。賑やかで人懐っこい元気な子ばかりでしたが日本の子どもに比べるとどうしようもなく不器用で折り紙は全然だめ。でも歌と踊りのセンスは抜群でした。さて、いつも貴重な情報を有難うございます。6月後半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からはインフルエンザは皆無となりロタウイルス腸炎は減少したがまだあり、代わりに非ロタウイルスのウイルス性胃腸炎が増加、ヘルパンギーナが増加傾向でクループ症候群も増加、感染性胃腸炎、クループ症候群の入院が多くなりマイコプラズマ感染症の入院は少なめ、城北病院渡辺先生からはまだ急性胃腸炎あり、しかしアデノ、ロタ陽性例は少ない、喉は赤くなくアデノも出ない高熱患者が多く、水痘が少なめだが常時あり、溶連菌感染症散見、三菱病院入山先生からはA群溶連菌咽頭炎が9名と目立ち（4名入院）、感染性胃腸炎は2名と少なく（病原性大腸菌 O25、O166）、咽頭結膜熱（8ヶ月女児、入院）、伝染性紅斑、ムンプスが各1名、マイコを含む肺炎・気管支炎の入院8名、中京病院柴田先生からは感染症としては特に目立つものはないが胃腸炎が少々、無菌性髄膜炎1例あり、とのお手紙でした。
- 2) 尾張地区：犬山市武内先生からはA群溶連菌咽頭炎、カンピロバクター腸炎を含む感染性胃腸炎、水痘がそれぞれ散発中で手足口病、ムンプス各1例、ヘルパンギーナ2例あり、常滑市民病院高橋先生からは6月前半に続き水痘と胃腸炎が目立ち、二峰性発熱でアデノ、インフルエンザ共に陰性、CRP 中等度陽性例の入院がチラホラあり、とのお手紙でした。
- 3) 三河地区：トヨタ病院木戸先生からは胃腸炎が外来では目立ち、麻疹は結局2 - 3名（いずれも親が罹患していた）、肺炎で入院し肺炎球菌抗原陽性の患者、HiB による急性喉頭蓋炎の入院が目立つ、加茂病院梶田先生からはインフルエンザ、ロタウイルス感染症はかなり減少、溶連菌感染症と水痘がやや多い、刈谷市田和先生からは全体に感染症は少ないがマイコプラズマ感染症とアデノウイルス感染症が少し目立ち（2週間で5 - 6例）、水痘、ヘルパンギーナ、溶連菌感染症がパラパラ見られる、豊橋市長屋先生からは感染性胃腸炎が目立つとのお手紙でした。有難うございました。

愛知県衛生研究所企画情報部(文責 磯村)

2007 年 6 月 15 日 (82 巻 24 号) <http://www.who.int/wer/2007/wer8224/en/index.html>

B 型肝炎ウイルス (HBV) ワクチン。中国。乳児全国一斉ワクチン接種による HBV 予防の進捗。HBV 感染症は中国における死亡の重要原因のひとつであり、全人口のほぼ 60% が感染歴をもち、人口の 9.8% が慢性化した肝疾患による死亡のリスクにさらされている。本報は 1997 年 - 2006 年における新生児、乳児の HBV ワクチン接種の普及状況である。(注 1 . 中国の予防接種拡大計画、Expanded Program on Immunization、EPI は 1980 年代から OPV、DTP、麻疹で開始、HBV は下記のように 92 年から追加。注 2 . WHO は HBV 感染頻度の高い国・地域では EBV ワクチン接種を EPI に組み込むことを勧告している。本邦のように妊婦検診を実施せずに、直接新生児・乳児全員に接種)。(1) 中国における HBV ワクチン接種プログラム：中国では 1992 年に接種開始。スケジュールは生後 24 時間、1 ヶ月、6 ヶ月の 3 回接種。当初は自費接種で高価なことから大都市地区だけであったが中国保健省は GAVI(Global Alliance of Vaccine and Immunization 世界ワクチン予防接種連盟。WHO を中心として公的国際諸機関、NGO、ワクチンメーカーなどが参加している)の支援のもとに 2002 年に接種 5 カ年計画を開始、05 年には無料化した。接種状況調査は 99 年と 04 年の全国の記録が保健省によりチェックされ、戸別訪問調査が 97 年(25,878 戸) 04 年には 01 - 03 年生れ小児 171,188 名を対象に調査実施、さらに GAVI プロジェクト実施報告書で DTP 3 接種記録と比較検討された。(2) 全国 HBV ワクチン接種率調査結果：a) 3 回接種完了児は 97 年出生小児で 70.7% だったのが 03 年出生小児では 89.8% に増加した(グラフあり)。b) 新生児接種率は 97 年出生小児の 29.1% が 03 年出生小児では 75.8% に増加。c) DTP 3 接種率との差は 97 年出生小児の 20% が 03 年出生小児では 3% に減少していた。d) 地域差：西部各省で 3 回接種 68.0%、新生児接種 49.5%、中部各省で 3 回 91.8%、新生児 72.7%、東部各省で 3 回 94.1%、新生児 81.9% であった(地図あり)。e) 出産場所との関連：01 - 03 年出生児では自宅出産児の接種は病院出産児の半分以下、04 年出生児では町の医院で生れた新生児の接種率は公立病院出生児の 2 / 3 であった(具体的な数字なし)。(3) 中国 GAVI プロジェクトの成果：DTP 3 接種率と HBV ワクチン 3 回・新生児各接種率の 01 - 06 年の増加状況は良好(グラフあり)。03 - 06 年に中国 GAVI プロジェクトの支援で約 1,540 万人の小児が HBV ワクチン 3 回接種をうけた。これは 1,470 万人の慢性 HBV 感染、26 万 5 千人の HBV 感染による死亡を予防出来たと推定される。

麻疹ウイルス。野生株ウイルスの標準的命名。07 年の最新情報。麻疹・風疹根絶計画を進めるのに必要な分離麻疹ウイルス野生株の遺伝子解析による分類・命名が 04 年の世界麻疹風疹検査室ネットワーク専門家会議で決められ、実施されている。本邦はその 07 年までの状況である。(1) 遺伝子型として野生株は 1B、1C、1D、1E、1F、1G、2A、2B、2C の 9 遺伝子型と 1a、1h、1j の暫定的 3 遺伝子型に分類されている。(2) 代表株の一覧表と進化系統樹(グラフ)あり。(3) 新規登場した暫定的遺伝子型：1G、1h、1i 型は 04 - 06 年、アジア、欧州で分離。1j 型は 01 - 04 年の流行株。日本で分離。05 年の世界ネットワーク会議で報告。以前の 1D 型と類縁。2C 型：ロシアで分離。2B 型：遺伝子多様性が多い型。1a 型：多様な群で暫定的に遺伝子型とされている。野生株ではないがワクチン株の RA27/3 株もこの

型に属している。 1Bと1D型：ヌクレオチド配列の一致性に問題があるが、07年4月時点、一応遺伝子型としてそのままになっている。 データの報告：世界風疹ウイルスデータベースが確立され、検査室ネットワークで最新情報が交換されている。

髄膜炎菌ワクチン。改良ワクチン。アフリカの悲劇終焉のきざし。07年6月8日、髄膜炎菌ワクチンプロジェクト(MVP)発表。WHOと米合衆国シアトルのNPOがインドのメーカー(インディアン血清研究所)と共同で開発した血清型A型ワクチン。安価(40米セント)、安全性・有効性の高い新ワクチン。現在第2相治験が進行中。発病予防だけでなく集団免疫獲得も期待されている。

WHO国際感染症、検疫病公示。6月9-14日届出。コレラ：ギニア、スーダン、カナダ(輸入例)、オーストラリア(輸入例)。

2007年6月22日(82巻25号) <http://www.who.int/wer/2007/wer8225/en/index.html>

レプラ(注：ハンセン病。WHOの記載のleprosyに準じて本抄訳ではレプラとした)。2007年の世界の状況。(1)まとめ：世界全体としては患者数は一定、新規発病者数は確実に減少傾向。全ての常在国で登録患者全員が多剤併用療法を無料でうけている。適切な診断と治療を国が実施することが強調され、レプラ減少のためのレプラコントロール世界戦略2006-10が進捗中。常在国では状況により国による差があるが保健活動の重要な一つとして統合化され、継続的に強化、ガイドラインにそった作戦が展開されている。(2)罹患状況。a)患者数：07年初頭で世界全体の登録患者数は224,717名。b)新規発見患者数：06年の年間新規発見患者数は259,017名(注：本文は登録患者数=registered prevalence、新規発見患者数=new cases detected。ずれがあるが、そのまま記載)。c)多発国：WHOのレプラコントロール目標は人口10万当り登録患者数1以下。1以上の国は1985年に122あったのが07年初頭には4ヶ国に減少。ブラジル、コンゴ共和国、モザンビーク、ネパール(05-07年の国別の登録患者数、04-06年の国別新規発見患者数の一覧表あり)。これら4カ国で世界の06年年間新規発見患者数の23%、07年初頭の登録患者数の34%を占めている。d)新規発見患者多発国：06年1年間で1,000名以上の国が15カ国(世界の新規発見患者の94%)。一覧表あり。多発10カ国は多い順にインド：139,252名、ブラジル44,436、インドネシア17,682、コンゴ共和国8,257、バングラデシュ4,280、ネパール4,235、ミャンマー3,721、モザンビーク3,637、ナイジェリア3,544、フィリピン2,517であった。e)新規発見患者数のWHO地域別の特徴：菌多数陽性患者(multibacillary leprosy caseの仮訳)の%、男女比、小児患者の%、2度以上の障害者(視力と上下肢障害)の%について地域別一覧表あり。目立つのは新規発見患者で菌多数陽性患者が多いのがケニア、ポリビア、インドネシア、エジプト、フィリピン、小児患者の%が多いのが中央アフリカ、ブラジル、スリランカ、イエメン、カンボジア、障害者の%ではブルンジ、パラグアイ、タイ、ソマリア、中国が多い。f)国別登録者数：109カ国から届出あり。上位5カ国は新規発見患者数と同じインド、ブラジル、インドネシア、コンゴ共和国、バングラデシュ。g)その他：再発例数の欄は空欄が目立ち、治癒率の届出はごく一部の、患者数の少ない国からだけで、ほとんどが空欄となっている。

愛知県感染症情報

2007年第26週(平成19年6月25日～平成19年7月1日)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエ ンザを除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
計	7	0	67	243	530	278	104	131	114	2	0	459	5	51	0	11	0	0	6	0	0
～6ヶ月					7	10			3			3									
～12ヶ月			3		31	13	5	3	58	1		27	1								
0歳																					
1歳	3		10	7	51	52	18	3	51			119		1		1			1		
2歳	1		7	16	64	58	21	6	2			93							1		
3歳	1		14	27	55	49	30	12				92		8		1			1		
4歳			4	48	52	44	15	18				56		10							
5歳			8	35	44	20	6	19				30		9							
6歳			10	35	34	11	5	18				20		6							
7歳			4	25	29	8	1	24				10		4							
8歳			2	14	19	5		13				2		5		1					
9歳	1		1	11	17			9				1		3							
5歳～9歳																			1		
10歳～14歳	1		3	11	37	4	2	5		1		4	4	4							
15歳～19歳					12	1								1		1					
20歳～			1	14	78	3	1	1				2									
20歳～29歳																1					
30歳～39歳																1					
40歳～49歳																2					
50歳～59歳																2					
60歳～69歳																1					
70歳～																					
70歳～79歳																			1		
80歳以上																			1		